

第6学年 外国語科学習指導案

日 時 令和5年 月 日 () 校時
指導者 HRT
ALT
場 所 6年教室

1 単元名 Our Best Memory –アメリカの友達に日本の文化を届けよう！–

(参照：NEW HORIZON Unit7 My Best Memory)

2 単元について

○児童観

本学級の児童は外国語科の授業に対して、意欲的に取り組むことができている。教師や友達の話に興味をもって耳を傾けるとともに、非言語的要素や既習表現等を用いてコミュニケーションを図る姿が見られる。一方で、6月にとったアンケートでは、「英語の学習は好きですか」という問いに対し、数名の児童が「どちらかといえば苦手」「苦手」と答えた。また、「英語は得意ですか」という問いに対し、約半数の児童が「どちらかといえば苦手」「苦手」と答えた。そこで朝の活動の時間に既習表現を使って、友達と考えや思いを伝え合う活動を取り入れた。日替わりで「3分間で○人以上と会話する」「3分間、同じ人と会話を続ける」の目標をたて、英語に慣れ親しんでいる。

7月に、実際にアメリカの友達と学校生活を送った際には、英語に苦手意識をもっていた児童も、自分の思いをなんとか伝えたい、異文化の友達のことをもっと知りたいという気持ちをもつことができていた。どの児童も、アメリカの友達と、お互いの文化を知るために、主体的にコミュニケーションを図ることができるようになってほしいと願っている。

○教材観

児童の実態から、「Our Best Memory –アメリカの友達に日本の文化を届けよう！–」という単元を設定した。小学校生活の思い出についてアメリカの友達に、自分や自分たちの文化を知ってもらったり、アメリカの友達のことをよく知るために、伝え合ったりするという目的に向けて、自分の小学校生活一番の思い出を紹介するという活動を単元のゴールとしている。小学校生活一番の思い出は「修学旅行」に偏る場合が多いが、異文化の友達に日本の文化を紹介するという相手意識と目的意識をもつことによって、友達と同じ行事であったとしても、自分の小学校生活の思い出を、異文化の友達に「こんなことを知ってもらいたい」「もっと伝えたい」という思いや、他の小学校生活の思い出も伝えたいという考えを深めることができると考える。

○指導観

第1時では、児童たちが単元のゴールを把握し、学習の見通しをもつことをめざす。教師の話聞くことを通して、ゴールをつかんだり、本単元で扱う語句や表現に気付いたりすることができるようにしたい。第2時では、日本や世界の子どもたちの小学校生活の思い出を、既習である「過去」「学校行事」の表現や、「四季」の語句を確かめながら、聞き取らせたい。第3・4時では、修学旅行で見たものや思い出に残った行事・楽しんだことを、友達とたずね合う活動を設定する。その際、自分の伝えたい学校行事や小学校生活についての情報を収集し、整理できるように工夫したい。第5時以降では、これまでの学習をもとに、交流校の友達に紹介する活動へと進んでいく。自分の小学校生活の思い出をよりたくさん、よく詳しく伝えられるよう、友達と意見交換をしながら、取り組ませたい。一人一台端末を利用し、自分の発表の仕方とモデル映像等を比べながら、十分に聞いたり、話したりを繰り返し、小学校生活の思い出について、自信をもって話すことができるようにしたい。日本の文化について異文化の友達によりよく伝わるよう、友達の考えやよさを取り入れたり、工夫したりしながら取り組んでいくことで、自分の考えを相手に伝えることの楽しさを味わわせたい。また、単元の終末の活動では、学級で1冊のアルバムにまとめ、異学年の友達に共有することを通して、書くことの良さも味わわせたい。

3 単元の目標

アメリカの友達に、自分のことや自分たちの文化を知ってもらったり、アメリカの友達のことをよく知るために、小学校生活の思い出について伝え合ったりすることができる。小学校生活の思い出について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。また、交流校の文化に対する理解を深める。

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (発表)	<p>〈知識〉 My(Our) best memory is ～. I(We) went ～. I(We) saw ～. I(We) enjoyed ～. およびその関連語句などについて、理解している。</p> <p>〈技能〉 小学校生活の思い出などについてMy(Our) best memory is ～. I(We) went ～. I(We) saw ～. I(We) enjoyed ～. およびその関連語句などを用いて、お互いの考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。</p>	<p>アメリカの友達に、自分のことや自分たちの文化をよく分かってもらうために、小学校生活の思い出などについて、自分の考えや気持ちを含めて話している</p>	<p>アメリカの友達に、自分のことや自分たちの文化をよく分かってもらうために、小学校生活の思い出などについて自分の考えや気持ちを含めて話そうとしている</p>
書くこと	<p>〈知識〉 My(Our) best memory is ～. I(We) went ～. I(We) saw ～. I(We) enjoyed ～. およびその関連語句などの英文の語順などを理解している。</p> <p>〈技能〉 小学校生活の思い出などについて例文を参考に書く技能を身に付けている。</p>	<p>本単元では記録に残す評価しない。</p>	<p>本単元では記録に残す評価しない。</p>

5 単元の指導と評価の計画（8時間）

時	目標（◆）と主な活動（○）	評 価			
		知技	思判表	態度	◎評価規準（評価方法） ※指導・学習改善のための評価（方法）
1	<p>◆教師の小学校時代の思い出を聞いておおよその内容を理解する。</p> <p>○Small Talk: What is your best memory? ○学校行事を表す語句を確かめる。 ○HRTとALTの小学校生活の思い出を聞き取る。 ○Unit7のゴール確認 ○NEW HORIZON p64 日本や世界の子どもたちの小学校生活の思い出を聞き取る。 ○本時の学習を振り返る。</p>				<p>※本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けての指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を見取り、指導に生かす。</p>
2	<p>◆日本や世界の子どもたちの小学校生活の思い出のやり取りを聞いて、おおよその内容を理解できる。</p> <p>○Small Talk: Did you enjoy ～(学校行事)? ○学校行事・四季を表す語句を確かめる。 ○NEW HORIZON p65 日本や世界の子どもたちの小学校生活の思い出を聞き取る。 ○本時の学習を振り返る。</p>				<p>※本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けての指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を見取り、指導に生かす。</p>
3	<p>◆アメリカの友達に日本のことをよく知ってもらうために、修学旅行で見たものについてたずね合うことができる。</p> <p>○Small Talk: How was your school trip? ○「建物」を表す語句や表現を確かめる。 ○NEW HORIZON p66 登場人物の学校行事の話の聞き取る。なりきり人物探しゲームをする。 ○世界の友達の小学校生活について聞き取る。 ○修学旅行で見たものについて友達と尋ねあう。 ○「Let's Read and Write」に取り組む。 ○本時の学習を振り返る。</p>				<p>※本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けての指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を見取り、指導に生かす。</p>
4	<p>◆アメリカの友達に日本のことをよく知ってもらうために、思い出に残った行事や楽しんだことをたずね合うことができる。</p> <p>○Small Talk: Was the ～ ○○ing? How was it? ○「動作」を表す語句や表現を確かめる。 ○NEW HORIZON p67 思い出に残った行事と、楽しんだことについてたずねる。 ○「Let's Read and Write」に取り組む。 ○本時の学習を振り返る。</p>				<p>※本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けての指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を見取り、指導に生かす。</p>
5	<p>◆アメリカの友達に日本のことをよく知ってもらうために、小学校生活の思い出について紹介することができる。</p>				

<ul style="list-style-type: none"> ○Small Talk: What did you enjoy ? ○教師のモデルを見る。 ○デジタル教科書で語句や表現を確認する。 ○紹介シートを整理したり、スライドを作成したりする。 ○一人一台端末を使って発表を録画する。 ○本時の学習を振り返る。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>※本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けての指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を見取り、指導に生かす。</p> </div>
<p>6 ◆アメリカの友達に日本のことをよく知ってもらうために、世界と日本の文化の違いを知り、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○Small Talk: What is your best memory? What did you do? How was it? ○NEW HORIZON p70 Do you know? に取り組み、世界と日本の文化の違いを知る。 ○違いを知った上で、紹介シートを加筆修正する。 ○一人一台端末を使って発表を録画する。 ○本時の学習を振り返る。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">発</div> <div style="text-align: center;">発</div> </div> <p>◎小学校生活の思い出などについて、My(Our) best memory is ～.などを用いて、お互いの考えや気持ちなどを話している。</p> <p>◎アメリカの友達に、自分のことや自分たちの文化をよく分かってもらうために、小学校生活の思い出などについて自分の考えや気持ちを含めて話している。(行動観察)</p>
<p>7 ◆アメリカの友達に日本のことをよく知ってもらうために、自分が紹介したい小学校生活の思い出について相手に伝わりやすいように工夫し、考えや気持ちを含めて話すことができる。</p>	
<p>本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Small Talk: Good things about our school. ○アメリカの友達からの動画を見る。 ○前時までの自分の動画を見て、発表の仕方や内容について考え、修正加筆する。 ○どのように修正したか共有する。 ○小学校生活の思い出を発表する。 ○本時の学習を振り返る。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">発</div> <div style="text-align: center;">発</div> </div> <p>◎アメリカの友達に、自分のことや自分たちの文化をよく分かってもらうために、小学校生活の思い出などについて、自分の考えや気持ちを含めて話している。(行動観察)</p> <p>◎アメリカの友達に、自分のことや自分たちの文化をよく分かってもらうために、小学校生活の思い出などについて、自分の考えや気持ちを含めて話そうとしている。(行動観察)</p>
<p>8 ◆異学年の友達に伝えるために、自分が紹介したい小学校生活の思い出をアルバムにまとめ、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、考えや気持ちを書くことができる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○Small Talk: What is your best memory? ○学級で1冊のアルバムにし、異学年の友達にも共有できるようにする。 	<div style="text-align: center;">書</div> <p>◎小学校生活の思い出などについて、My(Our) best memory is ～.などを用いて、自分の考えや気持ちなどを書いている。(行動観察)</p>

6 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第6学年）

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
<p>ゆっくり（または繰り返して）はっきりと話されれば、絵や動画などの視聴覚的補助を参考にしながら、自分のことや学校生活など身近で簡単な事柄について、基本的な表現を用いた短い文章の内容を理解することができる。</p>	<p>活字体で書かれたアルファベットの大文字と小文字を識別し、発音することができる。</p>	<p>あいさつを交わしたり、相手に指示や依頼をしたり、それに返答したりすることができる。</p>	<p>簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝えようとする内容を整理して、日常生活や学校生活での自分や相手、第三者に関することについて話すことができる。</p>	<p>アルファベットの大文字と小文字を4線の正しい位置に活字体で書くことができる。また、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や教科書に書かれている基本的な表現の語順をしながら書き写すことができる。</p>

7 本時の活動（第7時）

- (1) 目標 アメリカの友達に日本のことをよく知ってもらうために、自分が紹介したい小学校生活の思い出について相手に伝わりやすいように工夫し、考えや気持ちを話すことができる。

(2) 展 開

時間	児童の活動	指導者の活動		指導上の留意点 ◎評価規準（評価方法）
		HRT	ALT	
2分	・挨拶をする。	・全体に挨拶をする。		・楽しい雰囲気の中で和ませながら授業を始められるようにする。 ・既習表現を活用しながら、考えや気持ちを伝え合えるように支援を行う。
5分	・Small Talk	・「学校自慢」について話し、モデルを示す。		
3分	・アメリカの友達からの映像を見て、本時のめあてをつかむ。	・映像を見せることで、単元における目的、場面、状況を確認する。		・これまでの学習を想起させながら、単元におけるゴールを示す。 ・本時のめあてをつかむことができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> アメリカの友達が、日本のことについて、もっと知りたくなるような紹介をしよう。 </div>				
5分	・友達と紹介を行う。	・全体の様子を確認しながら個別に言葉かけを行う。	・very good stickerを児童に渡す。	・単元における目的と照らし合わせながら言葉かけを行う。
3分	・ALTやHRTの話聞く。	・紹介の内容について、よい点（主に語句や表現）について話す。 ・小学校生活の思い出について発表する。 ・自分の文化との違いを伝えながら聞く。		・「もっと知りたいと思ってもらえる」という目的を全体で共通理解することにより、何のために紹介しているのかを再確認できるようにする。
10分	・前時までの動画を見て紹介シートを修正したり、モデル動画を見て確認したりする。	・児童の様子に応じて、個別に言葉かけを行う。		・前時までの動画や、これまでに書きためてきた内容をふりかえり、目的をもって、紹介する内容を加筆修正することができるようにする。 ・どのように修正したか共有させる。
10分	・友達と紹介を行う。（2回目）	・よくなった点、変容した点を問う。	・ALTは活動に参加し、よい点についてvery good stickerを児童に渡し、価値付けの言葉かけを行う。	◎アメリカの友達に、自分のことや自分たちの文化をよく分かってもらうために、小学校生活の思い出などについて、自分の考えや気持ちを含めて話している。（行動観察） ◎アメリカの友達に、自分のことや自分たちの文化をよく分かってもらうために、小学校生活の思い出などについて、自分の考えや気持ちを含めて話そうとしている。（行動観察）
6分	・本時の活動を振り返り、reflectionシートを書いて発表する。	・児童の振り返りを取り上げ、紹介する。	・児童の紹介についての感想を言う。	・本時のめあてを伝えたり、児童の振り返りを紹介したりすることにより、自身の変容や成長に気付くことができる。
1分	・挨拶をする。	・次時の活動を知らせ、挨拶する。		・楽しい雰囲気の中で授業を終える。

(3) 評価及び指導の例

「話すこと（発表）」【思考・判断・表現】

「十分満足できる」と判断される状況(a)	アメリカの友達に、自分のことや自分たちの文化をよく分かってもらうためにという目的意識を明確にもった上で、伝える内容を整理し、自分の考えや気持ちを含めて話すことができる。
「おおむね満足できる」状況(b)を実現するための具体的な指導	紹介している際、「○○という表現を使うとよくわかるね」等の言葉かけを行い、目的を意識した上で、自分の考えや気持ちを含めて発表できるように支援をする。
「努力を要する」状況(c)と判断した児童への事後指導	「どのような内容にすればもっと知りたいと思ってもらえるかな」等の言葉かけを行うとともに、よいモデルを示すなど個別支援を行い、「おおむね満足できる」状況(b)を達成できるようにする。

「話すこと（発表）」【主体的に学習に取り組む態度】

<p>「十分満足できる」と判断される状況(a)</p>	<p>アメリカの友達に、自分のことや自分たちの文化をよく分かってもらうためにという目的意識を明確にもった上で、伝える内容を整理しながら、自分の考えや気持ちを簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとしている。</p>
<p>「おおむね満足できる」状況(b)を実現するための具体的な指導</p>	<p>アメリカの友達のことについて考えられるような言葉かけを行い、目的を意識した上で、自分の考えや気持ちを伝えられるよう支援をする</p>
<p>「努力を要する」状況(c)と判断した児童への事後指導</p>	<p>これまでの交流について一緒に思い出しながら、相手意識を再度確認させるとともに、よいモデルを示すなど個別支援を行い、「おおむね満足できる」状況（b）を達成できるようにする。</p>